

立法論綱

一

71
7118
1



冊四
號五拾法
函

立憲院
藏版

明治十一年九月刊行

英國ベンサム原著
日本島田三郎重譯

立法論綱

元老院藏

門 71
號 7118
卷 1



立法論綱序
其立論則與蘇氏不
西哲賓雜吾曰造化投人類于苦樂
之境焉信哉斯言也蓋就其所樂而
避其所苦者人之常情而不得免者
也則謂人生死乎苦樂之中亦無不
可也人既托命乎此豈可一日不擇

立法論綱

序

所以處焉之術乎是所以實利學之
起也實利學者發端于希臘人埃比
哥羅斯輓近英人賓氏以天縱之才
專講其學以警世之陷溺于陋習者
而使人生凡百事物約而歸之于實
利學之一科但其立論明覈痛快不

少假借而駁古今哲學及宗教之說
不復遺餘力是以在歐洲碩學未免
容異議于其間况使東方道學者流
俄然聞其說其不驚怪而疾惡目為
異端者幾希矣然而虛心平氣徐以
詳其立論之意則當見其中自有精

確不拔之真理而存焉夫實利之學
從人之常情以開發其理猶水之就
卑也哲學及宗教者流矯人之常情
以求合其理猶緣木而求魚也人
如得就其所樂則福利被於天下得
避其所苦則疾苦絕於天下故實利

之學使人生百行先審其苦樂利害
之所因而正邪善惡繼之皆責其實
而不惑其名者也友人島田書記官
以官務之暇譯賓氏之書題曰立法
論綱則實利學之一斑也徵序于余
余既喜賓氏之學而有此譯可謂同

立法論綱
好之幸也賓氏既以實利之學為立法之原立法之要無他亦在從人之常情而擇其為苦為樂如何也世之在立法之職者得此書而講此學則其所裨益為不鮮少矣則此舉豈唯余同好之幸而已乎哉此為序

明治十一年五月

元老院幹事從四位陸奧宗光撰

澀澤宣三書

西理學ノ淵源スルヲ舊シ其上世ニ在テハ獨
リギリシヤヲ推スソクレチスプレイトエリス
トトリスノ如キ其巨擘ニシテ後世仰テ以テ
泰斗トス但理學ノ極致道義ノ基礎ニ至テハ范
々トシテ歸宿スル所ヲ見ズ然リト雖ソクレチ
ス獨リ曰ク能ク義務ヲ遂ル之ヲ德行ト云フ人
其性ヲ知リ天ヲ知テ後ニ此域ニ至ル可シ而シ
テ義務ヲ遂ルニ於テ幸福ト德行トハ別テ兩物
トスル能ハスト此ノ言ニ由テ之ヲ推スニ蓋シ

緒言

泰西理學ノ淵源スルヲ舊シ其上世ニ在テハ獨
リギリシヤヲ推スソクレチスプレイトエリス
トトリスノ如キ其巨擘ニシテ後世仰テ以テ
泰斗トス但理學ノ極致道義ノ基礎ニ至テハ范
々トシテ歸宿スル所ヲ見ズ然リト雖ソクレチ
ス獨リ曰ク能ク義務ヲ遂ル之ヲ德行ト云フ人
其性ヲ知リ天ヲ知テ後ニ此域ニ至ル可シ而シ
テ義務ヲ遂ルニ於テ幸福ト德行トハ別テ兩物
トスル能ハスト此ノ言ニ由テ之ヲ推スニ蓋シ

法論綱

緒言

道ノ真ヲ見ル者ナリエピキユールスニ至テハ
稍詳ヲ加フルガ如シ其理學一ニ快樂ヲ以テ善
行トシ屹然トシテ一派ヲ成ス實利學ノ萌芽實
ニ此ニ發セリ不幸ニシテ後世其徒ト稱スル者
快樂是レ道ナリト云フ言ヲ借リテ以テ濫行ノ
口實トス是ニ於テ世論ノ刺譏ヲ招キ學者之ヲ
卑シテ口吻ノ間ニ措サルニ至テエピキユール
スノ旨荒メリ爾後又宗教ノ學盛ニニ行ルニ
及ヒ理學宗教其疆界ヲ混シ本然ノ性ヲ以テ道
義ヲ説ク者アリ天神ノ命ヲ以テ其原トスル者

アリ紛々擾々學者適從スル所ヲ知ルナレ之レ
ニ由テ道ヲ求ム猶ホ斷港絕潢ニ航シテ以テ海
ニ至ルヲ望ムガ如シ理學ノ旨明カナラサル此
ノ如シト雖自ラ名稱ヲ異ニシテ其實利ニ冥
合スル者有テ真理未嘗テ一日モ絶エサルナリ
而テ其立論ヲ殊ニシテ頗ル實利ノ説ニ協フ者
近代ニ在テハ蓋シ英國ノ學士ヒュームノ理學
ヲ然リトス其言ニ曰ク人間ノ幸福ヲ害スルノ
行為ハ道義ノ誹譏ニ中ル者ナリト然レモ是等
ノ諸家皆擇而不精語而不詳真理遂ニ世ニ明カ

ナラサルナリ千八百年代ニ及テバンサム氏英
 國ニ崛起シ天賜ノ敏才ヲ奮テ新義ヲ唱ヘ古賢
 エピキユールスヲ推シテ獨リ道ヲ知ル者トナ
 シ演繹精究實利ノ學ヲ大成シ之ヲ以テ法理ノ
 原基ト為シテ法學其面目ヲ一新セリ故ニ實利
 學ヲ稱フル者ハバンサムヲ推シテ宗ト為ス其
 學問ニ功アル大ナルヲ以テヒルドリス米人ハバ
 ンサムノ實利主義ヲベトコン英人ノ經驗理學ノ
 發明ニ比セリ然レ氏其說奇拔世論ノ範圍ヲ出
 ルヲ以テ往々當時ノ議ニ合ハズ門人ジエーム

ス、ミルサミュール、ロミリー共ニ英人其主義ヲ祖述
 シ瑞西人ボリーリング英人ヒル、ブルトン
 蕪格蘭人其遺篇ヲ纂録スルノ後バンサムノ名聲遂
 ニ泰斗ト共ニ高シジョン、スチユアルト、ミルジ
 ヨン、オースチン共ニ英人モ亦皆之ヲ奉ジ又ミル氏
 初メテ此學ヲ名ケテユチリタリアニス山利學ト
 云ヒ此ノ名ヲ以テ一書ヲ著ス又神學士ペイリ
 英人アリバンサムト時ヲ同クシテ英國ニ生ル
 亦便利ヲ以テ道學ノ基礎トス其說約子實利學
 ト歸旨ヲ一ニセリ蓋シバンサムノ說小瑕玼ア

ルヲ免レスト雖其大旨ニ至テハ諸家皆其範圍
 中ニ在テ違フヲナシ故ニヒルドリス曰ベンサ
 ムノ言論誤謬ナキニアラズト雖又能ク之ヲ發
 見スルノ準則ヲ啓示シタリト而テ後年英國政
 躰法律ノ改良ヲ促シタルハ蓋シ其說與テ大ニ
 カアリベンサム千七百四十八年二月ヲ以テ生
 レ千八百三十二年六月死ス著書數十種アリ今
 譯スル所ハ其一ニシテ從遊ノ友ジュモーン佛
 文ヲ以テ編述シヒルドリスノ英文ニ重譯セシ
 者ニ係レリ蓋シベンサム考察ノ力餘アリテ文

雅ノ才ニ乏シ故ニ其說ジュモーンノ存録シテ
 世ニ出ル者多シ
 此書ノ原名ヲプリンシブルス、オフレジスレ
 ショント云立法ノ原理ヲ論ズル者ニシテプリ
 シンブルス、オフレジブル、コード及ヒプリンシ
 ブルス、オフレジナル、コードノ二篇ト合シ一書ヲ
 成スレビキル、コードノ部既ニ何禮之君ノ譯述
 ヲ經テ世ニ行ハル民法論綱是ナリ其書名既ニ
 人ノ耳目ニ熟スルヲ以テ君ノ例ニ從ヒ本篇ヲ
 稱シテ立法論綱トス

立法論綱

緒言

四

ユ一チリチ」ノ字ハベンサム氏初メテ此學ニ
 使用シ其立論ヲ完成セル者ナリ今譯スルニ實
 利ノ二字ヲ以テス其本義此二字ニ盡ザルナリ
 夫レ譯字ノ原意ニ於ケル泛常ノ言語ニ在テモ
 或ハ之ヲ盡ス可能ハス况ンヤ一學ノ基礎トシ
 通篇ノ主眼トシテ用キル者ニ於テヲヤ猶ホ是
 レ比喻ヲ借テ真物ヲ形容スルガ如シ故ニ譯書
 ヲ讀ム者ハ當面一二ノ字ヲ認メテ原旨既ニ此
 ニ盡キタリト為ス可ナク必ス前後ヲ通觀シテ
 始テ其義果シテ如何ヲ見ルヲ得ベシ而シテ此

篇ノ如キハ首ヨリ尾ニ至ル迄悉ク實利兩字ノ
 注脚トナシテ看ンコトヲ要ス
 翻譯ノ間允當ノ字ヲ得サルニ因テ假ニ已ムヲ
 得スシテ奇僻ノ連字ヲ為リ之ヲ填スル者アリ
 ガンクシヨシヲ効權トシモチ一ゾヲ誘原トス
 ル如シ世間慣行ノ熟字ヲ用キ其意之レト異ナ
 ル者アリモラール、アリスメチツクヲ心計トス
 ル如シ或ハ原音ヲ存シテ籍注ヲ附スル者アリ
 諸此ノ如キノ類或ハ別ニ允當ノ字アラシ譯者
 文字ニ爛ハザルヲ以テ已ムヲ得サルニ出ルノ

三法論
 卷一

緒言

五

ミ又勉メテ原文ノ字句ヲ逐テ譯シタル者ハ行文頗ル煩冗ニ涉ルモ唯原意ヲ壞ラサランコトヲ欲シテナリ然レモ淺學ヲ以テ譯業ニ從フ誤謬必ス多カラシ幸ニ看者ノ指摘ヲ蒙リテ之ヲ改ムルヲ得ルハ譯者ノ固ヨリ願フ所ナリ

明治十一年五月 島田三郎識

立法論綱

目次

- 第一篇 實利ノ主義
- 第二篇 禁慾ノ主義
 - 第一章 專斷ノ主義即愛憎ノ主義
 - 第二章 憎惡ノ原因
- 第三篇 同
- 第四篇 立法上三主義ノ施行ヲ論ス
- 第五篇 前篇ノ餘意ヲ解説シテ反對ノ諸論ヲ駁ス
- 第六篇 快樂及ヒ痛苦ノ種類ヲ論ス

第六篇

同

第七篇

同

第八篇

第九篇

同

同

同

第一章 單純ノ快樂ヲ論ス

第二章 單純ノ痛苦ヲ論ス

痛苦及ヒ快樂ヲ以テ効權トナシテ論ス

快樂痛苦ノ尺度ヲ論ス

第一章 感情ヲ動ス事情ヲ論ス

第二章 感情ヲ動ス第二ノ事情ヲ論ス

第三章 實利ノ本論ヲ實用ニ供スル方法ヲ論ス

政治上ノ幸福及ヒ凶害ノ剖析○

第十篇

第十一篇

第十二篇

第十三篇

政治上ノ幸福及ヒ凶害ノ剖析○
此幸福凶害ノ社會ニ波及スル如何ノ狀ナル乎ヲ論ス

或ル行事ヲ罪科トスル所以ノ理由ヲ論ス

道學ト立法學トヲ區別スルノ分界ヲ論ス

立法學ノ趣意ニ關シテ謬妄ノ論理ヲ駁ス

立法論綱

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '第一篇' and '實利ノ主義'.

立法論綱卷一

第一篇

實利ノ主義

立法者ハ公同ノ幸福ヲ以テ其目的トセサル可
ラス又其論理ヲ立ルニハ一般ノ實利ヲ把テ其
基礎トセザル可ラス故ニ立法ノ學ハ社會真正
ノ幸福ヲ覺知スルニ在リ而シテ其術ハ此幸福
ヲ實施スルノ手段ヲ發明スルニ在ルナリ
若シ夫レ漫然トシテ實利ノ主義ト唱フル片ハ
之ニ抗論ヲ為ス者幾ント稀ナリ帝之ニ抗論セ



サルノミナラス却テ之ヲ以テ政學道學ノ普通ノ定説トスルガ如シ然レ此ノ如ク殆ント一般ニ承認スルハ唯表面上ノ觀ニ過ギスシテ此主義ニ談ツルノ意義價值分レテ數種トナリテ終ニ同一ナル者ナク又此主義ノ理解ヲ做スニ至テモ其一定ノ見解ト其論理法ニ合セル方式ヲ用ヰル者アルナシ

蓋シ此主義ニ須有ノ効力ヲ與フル為メニ(即此主義ヲ以テ論理方則ノ基礎ト做ス可キ為ニ)三綱領ヲ掲クル左ノ如シ

第一 實利ト云フ言辭ニ明瞭ニシテ恰當ナル意義ヲ附シ之ヲ使用スル各人ヲシテ悉皆同一ノ意義ニ出デシメン^トヲ要ス

第二 痛ク衆説ヲ排斥シテ獨リ此主義ノ齊一ト主權トヲ立^ントヲ要ス唯汎然ト此主義ニ雷同スルノミニテハ其効無シ必ス一点ノ干闕ナク一々此主義ニ原カン^トヲ要ス

第三 此主義ヲ齊一ノ結果ニ達セシム可キ心計按此ニ心計ト譯スル者ハ世間通語ノ心計ノ字義即チ策畧ノ意ニアラス能ク一定ノ法則ニヨリ利害ノ大計算スル數學ノ如量度スル恰モ夫ノ物數ヲ計算スル數學ノ如

云フ者ナリシテノ手段ヲ發見スルヲ要ス
實利主義ノ教則ニ服セザル者アリ其然ルヲ致
ス所以ノ原因一ナラスト雖概スルニ誤謬ノ兩
主義ノ外ニ出デス此兩主義ハ居恒ニ各人ノ見
識上ニ隱見出没シテ其威力ヲ奮ヘリ故ニ若シ
能ク之ヲ指摘シ之ヲ除去スル時ハ真正ノ主義
初テ純一ニシテ強勢ナル者ト成リテ存立スル
ヲ得ントス

右三箇ノ主義按三箇ノ主義トハ實利ノ主義及
誤謬ノ兩主義ヲ云フ兩主義ノ
詳解下篇ニハ互ニ相串義スル所ノ三條ノ岐路ニ

似タリ然レモ吾人ガ指望スル極所ニ達スルヲ
得ル者ハ唯一路アルノミ而シテ旅客ハ往々彼
ノ兩路ニ出入シ徘徊イテスル間ニ其時間ト氣
カトノ過半ヲ費耗スルニ至ル然リ而シテ真正
ノ道路ハ最モ平易ナル者ニシテ此路ニ於テハ
轉移ス可ラザルノ道程碑ヲ立テ磨滅ス可ラサ
ル通語ノ案内標ヲ配セリ之レニ反シテ他ノ兩
條ノ迷路ハ唯艱澁ノ文字ヲ以テ記セル前後矛
盾セル案内標アルノミナリ
比喩ノ閑話ハ此ニ休題シ請フ真正ノ主義及ヒ

反對ノ兩主義ニ於テ其明解ヲ與ヘン
 夫レ天道ハ人類ヲ苦樂ノ管内ニ放置セリ吾人
 凡百ノ思想ト凡百ノ決斷及ヒ凡百ノ生計皆此
 苦樂ノ羈縻ヲ脱スルヲ能ハス若シ夫レ此苦樂
 ノ繫累ヨリ其身ヲ脱去セント聲言スルノ人ヲ
 ランカ畢竟謔語タルニ過キス是レ自ラ其言ヲ
 所ヲ知ラサル者ニシテ此ノ人ハ現ニ其最大ノ
 快樂ヲ避ケ至慘ノ痛苦ヲ受ルノ時ニ際會スル
 モ尚覺悟セスシテ其最大ノ目的ハ唯其苦ヲ
 去リ其樂ニ就クニ在ルノミ此ノ如ク恒久ニシ

テ抗拒スベカラサルノ感情ハ道學者モ立法者
 モ大ニ精研セサル可ラサル所ナリ而シテ凡ソ
 人間百事ヲシテ悉皆此兩箇ノ誘源ニ從ハシム
 是レ即チ實利ノ主義ナリ
 抑實利ト云フ文字ハ無形ノ一辭ニシテ或ル幸
 福ヲ收メ或ル凶害ヲ避ク可キ一物ノ性質若ク
 ハ趣向ヲ表スル者ナリ其凶害トハ即チ痛苦ナ
 リ若クハ痛苦ノ原因ナリ其幸福トハ即チ快樂
 ナリ若クハ快樂ノ原因ナリ而シテ一箇人ノ實
 利即チ利益ニ適スルノ事ハ即チ其人ノ幸福ノ

法論綱
 卷一

全額ヲ増ントスル者ナリ一社會ノ實利即チ利
 益ニ適スヘキノ事ハ其社會ヲ構成スル各人幸
 福ノ全額ヲ増ントスル者ナリ
 又主義ト云フ文字ハ第一歩ノ思想ニシテ論理
 方則ノ原始即チ基礎ヲ成ス者ナリ今有形ノ物
 象ヲ假テ之ヲ例釋センニ主義ハ猶連鎖ノ第一
 環ヲ附スル一定点ノ如シ此ノ如キ簡約ナル一
 主義ハ原来分明ニシテ之ヲ形容シ之ヲ解釋セ
 ハ其承認ヲ確保ス可シ夫ノ數學ノ自證法（按自
ハ算術中ノ學語ニシテ別ニ其証ヲ假テ説明ス
ルヲ要セズ事實即チ証徴ヲ成ス者ナリ例ハ

加減法ニ就テ之ヲ言フニ一ニ如キ其何ノ故
 成シニヨリ一ヲ減シテ一ヲ餘スルヲ如キ其何ノ故
 一以テ然リト云フノ理アリテ疑ヲ容ル可キ無キ者ナ
 リノ如キ此類ニ居レリ其法タル直接ニ之ガ証
 ヲ立ル能ハスト雖モ若シ此法ヲ駁斥セントス
 ル者アラバ必ず却テ不經ノ一妄論ニ陥ルヲ免
 レスト云フノ一証ヲ示スノミヲ以テ足レリト
 ス
 實利ヲ解釋スルノ論理法ハ凡百ノ判決ヲ為ス
 ニ唯苦樂ヲ計算比較スルニ始マリ其他一切ノ
 思想ヲ混淆セシメサルニ成ル

今苦樂ヲ生スヘキノ趣向ハ公私ヲ論セス一行
為ヲ是非スルノ標準ト為シ所謂正邪善惡道德
放縱ト云フ辭ハ單ニ一種ノ苦樂ノ思想ヲ含有
スルノ約詞ト為シテ用キン此ノ如クンバ予ハ
即チ實利主義ヲ奉スルノ論者ナリ但シ今予ガ
此苦樂ノ詞ヲ使用スルヤ唯彼世間普通ノ字義
ニ依ルノミニシテ此内ヨリ一種ノ快樂ヲ排斥
シ一種ノ痛苦ヲ除去セントシテ別ニ隨意ノ新
義ヲ臆創スルニ非ザルナリ此一事ニ至テハ吾
人ハ改正ノ新意ヲ建立スルヲ要セズ又心理學

ノ説ヲ引用スルヲ要セズ彼アレト、エリスト
トリズ希臘理學ノ古賢ニ教ヲ乞フヲモ要セサ
ルナリ苦樂ハ各人均ク相感シテ皆首肯スル所
ニシテ王侯庶人博學無學ノ別有ル無キナリ
實利ノ主義ヲ遵奉スルノ人徳ヲ以テ善トスル
ハ唯快樂ノ之ヨリ發スルカ故ナリ其不徳ヲ以
テ惡トスルハ唯痛苦ノ之ヨリ生スルガ故ナリ
無形ノ善ヲ善トスルハ唯其有形ノ善ヲ生スル
ノ趣向アレバナリ無形ノ惡ヲ惡トスルハ唯其
有形ノ惡ヲ生スルノ趣向アレバナリ然リト雖

氏予ガ有。形ノ云々ト称スルハ心性ノ苦樂ト形
 骸ノ苦樂トヲ合一シテ之ヲ言フ者ニシテ現ニ
 心身ヲ具成スル一箇人ヲ指シテ云ルナルナリ
 實利主義ノ學徒ハ彼世間德行ノ標目中ニ其痛
 苦ノ生スルヤ快樂ノ生スルヨリモ尚多キノ一
 行為ヲ表記スルヲ發見スレバ此偽徳按偽徳
 徳ニ反スルノ謂世人ハ漫ニ称シテ徳トナスモ
 真理ヨリ之ヲ見レバ德行ニアラザル者ヲ云
 ヲ認メテ直チニ不徳トナシテ疑ハザルナリ此
 徒ハ世間謬見ノ詐騙ヲ受ケズ而シテ彼世人ガ
 真徳ヲ保存スル為メニ偽徳ヲ使用スルノ詐術

此徒ニシテ中様按中様ノ行為トハ猶尋常ノ事
 キノ行為ニアラサズ又兇惡ト貶斥スルハ行為無
 キノ事業ニアラザル者ヲ指シテ云ハル云々
 害ノ快樂ヲ世間罪犯ノ標目中ニ表記スルヲ見
 レハ此偽罪ヲ以テ合法行為ノ部ニ移シ置キテ
 疑ハサルナリ此徒ハ却テ此偽罪按偽罪トハ真
 レバ罪者ヲ云可ノ人ヲ怜ミ其怨心ヲ移シテ之
 ヲ虐スルノ人ヲ疾視セシトスルナリ

第二篇

禁慾ノ主義原注アスセキヲ按今義譯
テ禁慾ノ字ヲ填スルモ

ハ其辭義原ト勞業ヲ執ル人ヲ謂フ而シテ信神悔罪ノ苦業ヲ甘ニスル者タル僧侶ヲ指スニアル

此禁慾主義ハ恰モ前篇ニ指陳セシ主義ノ對頭
反義ナル者ニシテ之ヲ奉スルノ徒ハ人類ノ快
樂ヲ疾視ス其說ニ謂ラク形骸ノ慾ヲ滿タシム
可キ凡百ノ事ハ悉皆忌惡ス可ク罪視ス可キ者
ナリト此徒ハ禁戒ヲ道義トナシ自矯ヲ德行ト
為ス一言以テ之ヲ蔽フ曰ク是實利派ノ學徒ニ
反對シテ凡ソ享樂ヲ損減ス可キ事物ハ皆之ヲ
稱揚シ享樂ヲ増加ス可キ事物ハ皆之ヲ非毀ス

ル者ナリ
此ニ二種ノ學徒アリ其之ヲ奉スルノ度ニ於テ
ハ輕重ノ別アリト雖氏俱ニ此主義ニ遵フ者ナ
リ而シテ此二種ノ學徒ハ平生他ノ行為ニ就テ
之ヲ見ル時ハ甚々相逕庭スル者ノ如ク啻ニ逕
庭スルノミナラス又互ニ相誹譏スル者ナリ即
チ甲ハ理學家ニシテ乙ハ信神家ナリ夫ノ禁慾
派ノ理學家ハ世ノ賞讚ヲ博スルノ志望ニ激發
セラレ人間ノ快樂ヲ輕視シテ己レ以テ人類ニ
超駕ス可シトノ空想ヲ抱テ自ラ慰メリ其意以

為ラク其法言ニ定メタル苦業ニ服従スルモ名
 譽榮光ヲ得テ以テ其損失ヲ償フニ足ル可シト
 又彼禁慾派ノ信神家ハ虚喝ニ戰栗スルノ愚人
 ニシテ其意以為ラク人類ハ唯墮落セル一動物
 ニシテ此世ニ生レタル罪業ノ為メニ居常痛苦
 ヲ受テ止ム時無ル可ク又永劫艱難ヲ受クヘキ
 地獄常ニ其足下ニ開裂セントスルヲ以テ競々
 トシテ畏懼ノ念ヲ暫クモ胸中ニ絶ツ可ラザル
 者ナリト然リト雖モ斯ノ如ク愚論ノ犠牲トナ
 ル徒モ亦一片ノ希望心ヲ抱クコト他一般ノ人

類ニ異ナラス此悒鬱タル信神家ト雖モ啻ニ夫
 ノ神聖ノ虚譽ニ属セル世間ノ快樂ヲ博スルノ
 ミナラズ尚且少間現世ニ於テ甘ジテ痛苦ヲ受
 ケバ之レガ為メニ未来永劫福祉ヲ保占ス可シ
 ト云フノ一念ヲ以テ自慰セル者ナリ是ヲ以テ
 之ヲ觀レバ禁慾派ノ主義ト雖モ亦實利派ノ思
 想(但其正當ヲ失セル)外ニ脱出スル能ハス而シ
 テ其盛大ノ一派トナルヲ得タルハ唯其謬妄ヨ
 リシテ之ヲ致セルナリ(原注)此謬妄ハ其所由ヲ
 仁惠アル者ナレ且禁制恐嚇ヲ為スノ性質アリ
 リト謂ヒ做スヨリ起レ抑知ラズ禁制恐嚇ハ

唯害心ヲ漏スガ為メニ威カヲ用キル深刻者ノ
 氣象ナルノミ○吾人ハ今此禁慾派ノ神學家ニ
 問ントス若シ吾人ノ生命ヲシテ快樂ヲ與ヘザ
 ル者タラシメバ生命ハ果シテ何等ノ利益アル
 乎天神現世ニ享樂ヲ禁ストセバ其後生ノ
 天惠ト云フハ何物カ之ヲ証憑シ得ル乎
 信神家ノ此主義ヲ遵奉スルヤ遠ク理學家ノ右
 ニ出ル者アリ蓋シ理學黨ハ快樂ヲ以テ非ナリ
 トスルニ止マリタレ氏信教派ハ痛苦ヲ嘗ルヲ
 以テ其義務ニ轉用セリスト一イシズム希臘ノ
 唱セシ學派ノ徒ハ痛苦ハ凶害ニアラスト云
 フニ過ギスジヤンセニスム羅馬教ノ一派コル
 リユスジヤン派ノ徒ハ痛苦ハ實ニ善事ナリト
 セン開祖タリ

云ヘリ理學ノ徒ハ一概ニ快樂ヲ非斥スルニ至
 ラズ唯其粗俗淫肆ノ快樂ト稱スル者ヲ誹譏シ
 夫ノ感情智慧ノ快樂ハ却テ之ヲ褒揚セリ蓋シ
 此學徒ヲ稱シテ甲ノ快樂按所謂粗俗ヲ盡ク非
 斥スル者ナリト言ニヨリ寧ロ乙ノ快樂按所謂
 慧ノヲ撰取スル者ナリト評スルヲ可トス即チ
 快樂ヲ撰取スル者ナリト評スルヲ可トス即チ
 本名ナル快樂ノ字面ニ向テハ輒チ之ヲ卑避ス
 レ氏其異稱ナル名譽榮光盛名躰面自重ノ字面
 ニ至テハ之ヲ揚讚シタリ
 今禁慾家ノ謬妄ヲ過大ニ言ヒ做ス、誹譏ヲ避

ンガ為メニ其教則ニ歸スルヲ得可キ最小ナル
背理ノ原因ヲ掲ントス
古人以為ク人類快樂ヲ好ムノ情ハ惡ム可キ行
為ヲ誘致スル者ナリト更ニ之ヲ切言スレバ其
行為ハ利少害多ノ謂ナリ故ニ此惡結果ノ起ル
ヲ顧ミテ快樂ヲ禁止スルハ真道德良法律ノ目
的ナリトス然ルニ彼禁慾家ハ誤謬ヲ致セリ何
ニトナレハ渠等ハ直チニ此快樂ヲ排斥シ一般
ニ之ヲ罪視シ概シテ禁止ス可キノ準的トナシ
譏責ス可キ性質ノ標号トナシタレバナリ而シ

テ其或ル一部分ヲ例外ニ置テ之ヲ許シタル者
ハ唯人性短所ノアルカ為メニ己ムヲ得ズレテ
之ヲ寛恕シタルナリ

第三篇

第一章

專斷ノ主義即愛憎ノ主義

此主義ハ唯其感情ヲ以テ是非ヲ私斷スルノ外
曾テ之ヲ斷スル所以ノ理由ヲ説明セザル者ニ
シテ予ハ之ヲ愛ス予ハ之ヲ憎ムト云フノ一語
ヲ以テ樞軸トシ此主義ヲ運轉スルモノトス今

夫レ一事アリ其之ヲ判シテ善トシ之ヲ斷シテ
惡トスルヤ其此事ニ関スル人ノ利ニ合スルト
否トニ就テ爾云フニ非ズ却テ其之ヲ判スル人
ヲ悦シムルト厭ハシムルトニ由テ之ヲ決スル
ナリ此判者ハ無上君主ノ如キ威權ヲ奮テ之ヲ
宣告シ又其是非ヲ以テ他ニ控訴スルヲ許サズ
而シテ社會ノ利害ヲ考ヘテ其說ヲ辨正セサル
ヲ得スト思考セズ其言ニ曰ク是レ我胸中ノ勸
誘ナリ我親實ノ自信ナリ我ノ感想スルコト此ノ
如シ他人ニ謀議スルヲ待タザルノ感情ナリ我

ニ協同セザルノ輩ハ即非理ナリ人類ニ非サル
ナリ唯人面ノ妖物タルナリト此主義ヲ以テ判
決スル徒ハ其專斷ノ語勢是ノ如シ
然リ而シテ今試ミニ問フ可キ者アリ世間此ノ
如ク其自己ノ感情ヲ以テ法則ト決定シ恣ニ自
許シテ差謬アルコト無シトスルノ妄人アル可キ
乎其自稱シテ愛憎ノ主義ト云フ者ハ之ヲ評シ
テ論理ヲ立テ、説明スルノ主義ニ非サルナリ
ト云ハンヨリハ寧口之ヲ一切ノ主義ヲ空視塗
抹スル者ナリト云テ可ナリ世人思想ノ真ノ紛

亂ハ將ニ是ヨリ起ラントス何ントナレハ各人
均ク唯其感情ヲ以テ一般ノ大則トス可キ權利
ヲ有スルモノトナル故ニ究竟彼普通ノ量衡ヲ
失フ可ク吾人ガ控訴シテ其正ヲ取ルヲ得ルノ
終局モ亦無ル可キヲ以テナリ
夫レ此主義ノ不經ナルヤ固ヨリ一点ノ疑團ヲ
容レザルナリ然レバ誰一人トシテ膽敢ニ予ハ
汝ニ請フ予ノ思考スル如ク思考セヨ而シテ予
ヲ煩スニ其理由ヲ説明スルノ勞ヲ以テスル勿
レト公言スル狂者アラザルナリ若シ之レアラ

シカ即チ人々將ニ起テ此ノ如キ不經ナル狂言
ヲ非難セントス是故ニ其徒ハ之ヲ避シガ為メ
ニ其手段ヲ掩飾スヘキ種々ノ創意ヲ假ルニ至
ル夫ノ專制ノ如キ或ル巧辭ヲ以テ其躰面ヲ蔽
ヘリ理學諸教則ノ過半ハ此例ニ供ス可キモノ
ナリ
一人アリ他人ニ向テ曰ン予ノ天賦ニ於ケル百
事ノ善惡ヲ識別シテ之ヲ汝ニ指教ス可キ者ヲ
有セリト而シテ此人ハ自ラ之ヲ稱シテ其良知
ト云ヒ或ハ其道義ノ感情ト云フ斯ク説キ了リ

テ後恣ニ判決シテ曰「某事ハ善ナリ某事ハ惡ナリト人若シ其故ヲ問ヘハ則チ曰ク我ガ道義ノ感情ノ我ニ告ル」斯ノ若キノミ我良知ノ甲ヲ是トシ乙ヲ非トスル如此キノミト
又一人アリ其言說前者ト異ナリ其善惡ヲ識別スル者ヲ道義ノ感情ト云ハズ而シテ之ヲ普通ノ感情ト云フ其說ニ曰ク「此普通ノ感情トハ各人ノ悉ク有スル者ナリト然ルニ此說者ハ既ニ各人ト云フト雖氏世間ニ其己レト思考ヲ同クセサル人アル事ヲハ不問ニ措ク」ニ注意セリ

又一人アリ曰ク「夫ノ道義ノ感情ト云ヒ普通ノ感情ト云ヘル之ヲ總フルニ共ニ是レ唯一夢想タルノミ而シテ智慧ナルモノアリ能ク事物ノ善惡ヲ識別スル者ナリト其說ニ曰ク我ガ智慧ハ我ニ告ルニ某事ノ善ナルト某事ノ惡ナルトヲ以テス而シテ世間ノ善且智ナル者ハ皆我ト同キ智慧ヲ有セル者ナリ若シ其異様ノ思考ヲ抱ケル徒アラシカ是レ即チ其智慧短欠盡濫セル明徴ナリト
又一人アリ曰ク「予ハ正理ノ法規ノ恒久不易ナ

ル者ヲ有セリ此法規ハ人ニ教令ト禁制トヲ指
示スル者ナリト此人乃チ其自家特別ノ感情ヲ
吐露シテ他人ニ授ケ之ヲ以テ正理ノ恒久法規
ノ條歎トセシム
博士ヤ法家ヤ官吏ヤ理家ヤ自然法ヲ説テ人ノ
耳朶ニ反響スル者世間其人甚ダ多シ然リ而シ
テ今其實際ヲ視ルニ其教則ノ諸点ニ於テハ各
家ノ説互ニ相牴牾シテ互ニ相諍論ス而シテ今
此諍論アルニ關セス各家皆一樣ニ已レヲ篤信
シテ其進路ヲ追ヒ各其自家ノ説ヲ以テ皆自然

法ノ注脚トシテ之ヲ主張セリ而シテ或時ニハ
其字面ヲ變換シテ自然ノ權利自然ノ公道人類
ノ權利等ノ文字ヲ以テ暗ニ自然ノ法ト言フ可
キ所ニ填ルコトアルナリ
或ル理學家ハ自ラ真言ト稱スル者ヲ基本トシ
以テ其道學ノ教則ヲ建立セシコトヲ圖レリ其説
ニ據ルニ宇宙ノ間唯一凶害アルノマ虚言ト云
フ者是ナリ人或ハ其父ヲ弑スルモノアラシ是
レ其罪科ヲ犯セルナリ何ントナレハ是レ其父
ヲ父ニアラスト聲言スルノ一働作ナレバナリ

ト此理學者ハ凡百ノ事物ニ於テ其忌ム所ノモ
ノハ皆之ヲ虚言ノ一種類ナリトシテ之ヲ非ト
セルナリ其意謂ラク畢竟吾人ノ罪行ハ其為ス
當ラザル者ヲ以テ却テ為ス可キノ事ト主張ス
ルニ外ナラザレハナリ

此專斷者流中其最モ率直ナル者ハ公然ト之ガ
説ヲ為シテ曰ク予ハ神使ナリ天神ハ世人ニ某
事ノ善タル某事ノ惡タルヲ知ラシメン為メニ
之ヲ神使ニ諭示セリ天神躬ラ予ニ真道ヲ啓告
シ予ノ口舌ヲ假リ之ヲ世人ニ告ケシム若シ予

ヲ疑フ所ノ人ハ請フ皆來テ天神ノ聖言ヲ聞ク
ト
以上舉ル所ノ諸法則更ニ許多アリト雖其根
柢ハ唯是レ專斷ノ主義即チ愛憎ノ主義ニシテ
其文字ノ形狀ヲ異ニシ各自其假面ヲ装フニ過
ギズ而シテ其目的ハ自己ノ持論ト他人ノ説ト
ヲ比較スルノ勞ヲ省キテ其持論ニ捷利ヲ取ラ
ントスルニ在ルナリ此等偽冒ノ主義ハ唯其專
制ヲ掩飾シテ之ヲ保持セントスルニ過ギザル
ナリ左ナクトモ苟モ其罪責ナクシテ之ヲ為ス

ヲ得可キノ時ハ輒チ之ヲ實施セントスル過度
ノ意好ヲ抱ケル專制ノ氣象ヲ掩飾シ保持スル
ナリ然リ而メ其結果ハ如何ノヤ假令其人ヲシ
テ純粹ナル志望ヲ有セシムトモ終ニ其自己ヲ
苦シメ并ニ他人ノ憂患トナル者ナリ若シ其人
ヲシテ鬱悒ノ氣象ナラシメンカ必ス憂悶無聊
世人ヲ痴呆視シ下劣視シテ之ヲ悲痛センノミ
若シ又其人ヲシテ燥急ノ氣質アラシメンカ其
自己ト思考ヲ異ニスル者ニ對シテ痛ク之ヲ駁
斥シ其信神ノ精神ヲ以テ熱心ニ異教攻撃家ト

ナリ以テ世害ヲ為シ而メ其義務ト思惟スルヨ
リ起ル所ノ有害ナル激情ヲ以テ狂信ノ火勢ヲ
煽ギ己レガ神聖トシテ信奉スルノ説ヲ黙々ト
シテ信セサル人アラハ悉ク冥頑者トナシ不信
者トナシテ之ヲ誹謗セントス
然リト雖此ニ著目ス可キノ要点アリ彼愛憎
ハ主義ト云フモノモ亦徃々吾ガ實利ノ主義ニ
暗合スルアルナリ夫レ己レヲ利スル者ヲ愛
シ己レヲ害スル者ヲ憎ムハ人情一般ノ主義ナ
リ故ニ己レニ利アルノ行為ヲ稱揚シ己レニ害

アルノ行為ヲ嫌忌スルハ全世界内同一ノ感情
 ニシテ道義ノ如キ法理ノ如キ皆此自然ノ感情
 ニ依リ往々實利主義ノ大目的ニ達スルコトアリ
 但其明瞭ノ意義ヲ缺クノミ然リト雖氏此等ノ
 愛憎ヲ以テ未タ確乎不易ノ指導者トスルニ足
 ラザルナリ試ニ今一人ヲシテ其想像ノ一因ニ
 就テ其幸トナリ不幸トナルコトヲ勘究セシメン
 ニ此人ハ必ス無根ノ愛好ト非理ノ憎惡トノ為
 メニ羈束セラレバシ何ントナレバ夫ノ宗教ノ
 迷自衛ノ惑宗派ト朋黨トノ精神ハ大抵人ノ妄

愛妄憎ニ原スル者ナレバナリ其意ヲ察スル
 風儀ハ異ナル持論ハ別ルハ好尚ハ違フ如ク
 至微瑣末ノ事件ヨリ彼我互ニ敵視スル者アリ
 夫ノ歴史ヲ通覽セヨ至愚ナル罅隙ト無用ナル
 殘虐トノ蒐集ヲ除テ更ニ又何物カアル昔者一
 國君アリ毫モ利害ニ管セザル名稱ヲ用キル
 種ノ徒ヲ見テ仇敵ノ感想ヲ起シ其徒ヲ呼テ
 リアント云ヒアノ創始セシ耶蘇教ノ僧アリ
 黨ト云ヒソシニアンスト云ヒ意太利人ノ一派
 ソシニエース及ビイリアステイト云ヒ一信

ナレトセザル者 是之レガ為メニ刑臺ヲ建立シ
 又祭壇ニ伴フ可キノ僧徒ヲシテ刑吏ヲ指揮排
 列セシメ彼異教者ヲ火中ニ焚殺シ其日ヲ以テ
 國祭ノ祝日トナスニ至レリ又魯斯亞ニ於テハ
 十字狀ヲ象畫セン為メニ用キル可キ手指ノ數
 ニ就テ紛議爭論多ク年所ヲ經タリ而シテ之ヲ
 一定セン為メニハ遂ニ内亂ヲ起スニ至レリ又
 羅馬及ヒコンスタンチノトプル東羅馬帝國ノ都
 人ハ相分レテ彼俳優ヤ御者ヤ劍客ニ左袒シ互
 ニ結黨シテ相爭ヒ其綠色隊ト其藍色隊トノ勝

敗ヲ以テ年歳ノ豐凶ヲトシ此醜ム可キ競争ヲ
 重視シテ之ヲ以テ帝國ノ勝敗ヲ前知スト妄言
 スルニ至レリ
 然ルニ憎惡モ實利ノ主義ト一致ヲ相成スノ時
 アリ但此時ト雖モ未タ之ヲ以テ一行為ノ好基
 本トスルニ足ラサルノミ例ヘバ人アリ一時ノ
 怒ニ因テ盜人ヲ裁判廳ニ拘引訟告スル者アラ
 ニ其行為ノ善事ナルヤ明カナリ然レモ其意ハ
 則チ危險ナルモノアリ何ントナレハ其怒氣ヨ
 リ出タル行事ハ或ル時ハ善行ヲ生スルアルモ

其危険ナル者又更ニ多カラントス故ニ恒久確
乎タル善行ノ基本ハ唯一アルノミ實利ノ考察
即チ是レナリ往々實利ニ意無クシテ邂逅ニ善
事ヲ為シ得ルヲナシトセズト雖氏唯此考察ヲ
除テ恒久ニ能ク之ヲ為ス者ハ未タ曾テアラサ
ルナリ彼愛憎ノ如キハ其禍害ニ陥ルヲ防止セ
ンガ為メニ必ス實利ノ主義ヲ以テ之ヲ箝制セ
ザル可ラサルナリ然ルニ實利ノ主義ニ至テハ
獨リ自ラ其權衡ヲ把持スルノ主宰トナリ又他
力ヲ假用セサルナリ此主義ニ於ケルヤ如何ニ

之ヲ擴充スルモ決シテ過度ニ至ルノ患アル
ナキモノナリ
卷首ヨリ此ニ至ルノ要領ヲ約説スル左ノ如シ
曰ク禁慾ノ主義ハ正面ヨリシテ實利ノ主義ヲ
攻撃スル者ナリ愛憎ノ主義ハ實利ノ主義ヲ駁
セズ亦之ニ與ミセサルナリ嘗テ之レニ関涉セ
ズシテ漠然利害ノ間ニ彷徨セルモノナリ禁慾
主義ノ正理ニ反背スルノ甚キヤ其之ヲ遵奉ス
ルノ徒ノ中ニ於テ最モ堅忍無情ナル者ナリト
雖氏盡ク之ヲ實踐シ肯セサルナリ愛憎ノ主義

ハ其黨ヲシテ敢テ實利ノ主義ヲ參用スルヲ禁
セザルナリ唯實利ノ主義ニ至テハ百事ヲ包括
シテ一事物ヲモ例外ニ置クヲ要セズ又之ヲ例
外ニ置クヲ許サザルナリ我ニ服セザル所ノ者
ハ我ニ反スル者ナリト云フ言ハ此主義ノ題号
ト為スベシ此主義ニ據ルニ一法律ヲ設立スル
ハ考察ト計畫トノ事タリ禁慾派ニ從ハバ狂信
ノ事タリ愛憎ノ主義ニ從ハバ喜怒ヤ想像ノ好
尚ノ事タリ此第一ノ手段ハ以テ學士ニ適スベ
ク第二ハ以テ僧侶ニ適スベク第三ハ以テ黠才

士、腐儒、俗士及ビ凡衆ノ好ム所トナルベシ

第二章

憎惡ノ原因

憎惡ハ常ニ威力ヲ道義ト立法トノ上ニ奮フモ
ノナリ其勢力至大ナルガ故ニ憎惡ノ因テ生ス
ル所ノ主義ヲ論究スルトハ又實ニ缺ク可ラザ
ルノ要件ナリ

第一ノ原因 躰感ノ嫌惡 夫レ有形ノ憎惡

ヲ移シテ之ヲ無形ノ憎惡ニ及ボスハ世人普
通ノ情狀ニシテ其主見無キ者ニ至テハ特ニ

此弊甚シトス夫ノ無害ノ動物ニシテ其狀貌ノ醜惡ナルガ為メニ恒ニ酷烈ノ楚毒ヲ受ルモノ甚タ多シ異常ノ物ハ吾人ヲシテ厭嫌憎惡ノ感情ヲ激生セシムルノ勢力アリ世間稱シテ妖物トスル所ノ者ハ唯少ク其類ヲ異ニセル物タルニ過キズ彼ノ「ヘルマ」ヲロダイテ（按）混性ト譯スベシ即チ一身ニシテノ如キハ其男女雄雌ノ孰レニ属ス可キヲ辨ズル能ハズ人乃チ之ヲ見テ戰栗ス其故ヲ問ヘバ唯其希有ナルガ為メノミ

第二ノ原因 慢心ヲ毀傷セララル、（一） 夫レ人アリ我說ニ服從セサルハ間接ニ我智慧ヲ蔑視シ争点ヲ判決スルニ足ラスト云フノ意ヲ現ス者ナリ此事ヤ我自ラ愛許スルノ心ヲ破毀スルヲ以テ遂ニ我ヲシテ彼人ニ抗敵セシムルニ至ル而メ彼人ハ幾分カ唯我ヲ蔑視スルヲ証スルノミナラス彼説ヲシテ終ニ我ニ捷タシメハ隨テ將ニ我ヲ非譏スルノ分量ヲ廣メントスル者ナリトス

第三ノ原因 威力ヲ制セララル、（一） 假令ヒ

我虚譽ヲ毀傷セラレズトモ夫ノ好尚ノ相異
ナルカ持論ノ相反スルカ利害ノ相容レザル
カニヨリ我威力之ガ為メニ制セラレ我四方
ニ廣布セントスルノ權勢之ガ為メニ限縮セ
ラレンカト疑フノ思想ヲ起スナリ斯ノ如ク
自己ノ弱氣ヲ懊惱スルハ中心ノ痛苦ニシテ
即チ他人ニ對シテ不平ヲ包藏スルノ萌芽ト
ナルナリ

第四ノ原因 信任ノ將ニ衰減泯滅セントス
ル。吾人ハ自家ニ幸福ヲ生ゼシム可キノ

行事ヲ為ス者トシテ他人ヲ信任ス可キヲ
望メリ然ルニ他人我ノ信任ヲ滅殺ス可キ行
為アル毎ニ我心中ニ厭惡ノ念ヲ生ゼシメザ
ル能ハス例ヘハ人ノ一虚言アルヲ見レバ吾
人ヲシテ其言ヲ所ト其約スル所トニ向テ総
テ信任ヲ置ク能ハサルヲ覺ラシム又人ノ妄
誕ノ一例アレバ事毎ニ吾人ヲシテ其理否如
何ヲ疑ハシメ隨テ其行為ヲ併セテ亦之ヲ疑
フニ至ラシム又人ノ變心輕浮ノ一行為アル
ヤ吾人ヲシテ其友愛モ亦頼ムニ足ラザルヲ

見セシムルナリ

第五ノ原因 同心一意ヲ希望スルヲ 同心
一意ナルハ吾人ノ愛スル所ナリ人ノ感情ノ
此一致ヲ為スハ即チ我説ノ真正ニシテ之ニ
憑ル所ノ行為ノ實利アル可キ唯一我自己ノ
本心ヲ除キテハ一ノ確証ナリ且又人々其好尚
ニ適スル説ヲノミ談ズルヲ好ム者ニシテ
其説ノ行ハルハ過去ヲ回想スルモ未来ニ
矚望スルモ共ニ其愉快心ノ原因ナリトス他
人ノ言論ト雖モ苟モ其自己ノ好ム所ニ類似

スル者ハ快適ヲ我意上ニ生ゼシメ新異ノ見
識ヲ以テ此事物ヲ覺知セシメ以テ我快樂ノ
原ヲ廣ムルナリ

第六ノ原因 猜忌ノ心 此ニ人アリ何等ノ
害ヲモ他人ニ及ホケスシテ獨リ其幸福ヲ享
ル者ハ理ニ於テ之ニ抗敵スルモノ無ル可キ
ニ似タリ然リ而シテ世人ハ謂フ此ノ幸福ヲ
享ル者ハ之ヲ享ザル人ノ幸福ヲ減スト
蓋シ世間普通ノ考察ニ因ルニ彼猜忌ノ心ハ
舊獲ノ利ヲ慣視シ新生ノ利ヲ仇視スル者ナ

リ彼ノ「アツプスター」ト人^{發跡}ナル辭ヲ以テ常
ニ不正ノ字義ト看做シテ之ヲ解スルモノハ
之ガ為メナリ原ト此辭ハ新利ヲ得タリト云
フ字義ナルニ世人ノ猜忌ノ為メニ餘意ヲ生
ジテ微賤ノ回想ト妄作ノ蔑視トヲ以テ之レ
ニ附加セリ
猜忌ノ心ハ禁慾派ノ學徒ヲ生ズ可キモノナ
リ夫レ人ハ年齡貧富遭遇等ノ差別アルカ為
メニ常ニ平均ノ享福ヲ得ル能ハザル者ナリ
然ルニ禁戒ノ嚴法ハ世間一切ノ人類ヲ驅リ

テ一樣ノ水準上ニ置クヲ得可シ又猜忌ノ心
ハ道義ノ嚴酷ナル想像論ヲ以テ快樂ノ全額
ヲ減ズルノ一手段トナシテ之レニ傾向セシ
ム其言ニ曰「若シ人アリ吾人ノ有セサル所ノ
快樂ノ躰機ヲ具ヘテ生ル、者アランカ是レ
之ヲ妖物トシテ驅逐セント此徒ニシテ此語
アル亦宜ナルカナ」^{按禁慾家ノ主義ハ快樂ヲ疾視ス故ニ此言ヲ發スル}
モ亦怪ム
ニ足ラス
以上皆憎惡ノ原因ニシテ憎惡ヲ構成スル感情
ノ淵叢ナリ今其暴横ニ至ルヲ節センガ為メニ

請フ左ノ考察ヲ陳ン

夫ノ十分ノ同心一意ト云フハ二人ノ間ニ於テモ尚ホ有ルヲ無キナリ○斯ノ如ク交際ニ背ケルノ感情ニ委センニハ其憎惡ノ情漸次ニ增長シテ止マズ以テ歩々ニ吾人ノ好情快樂ノ壇域ヲ短縮ナラシメンノミ○一般ニ吾人憎惡ノ心ハ各自ノ身上ニ反働ス○憎惡ヲ激生スルノ事物ヲ我心外ニ放逐シテ憎惡ヲ減削シ當ニ減削スルノミナラス遂ニ之ヲ絶滅スルモ亦吾人ノ力ノ做シ難キ所ニ非ザ

ル可シ

幸哉彼愛好ノ原因ハ常ニシテ自然ナル者ナリ而シテ彼憎惡ノ原因ハ變ニシテ雲烟ノ如キ者ナリ
道義ノ著述者ヲ別チテ二類ト為スヲ得ベシ即チ甲ハカメテ憎惡ナル毒物ヲ鞫絶セントスル者ニシテ乙ハ之ヲ弘布セント欲スル者ナリ而メ甲ハ世人ノ誹譏ヲ受ケ易ク乙ハ則チ其愛敬ヲ得タリ何ントナレバ乙ノ如キハ彼道義ノ假面ヲ蒙リテ復仇ト嫉惡トノ用ニ供スルニ足レ

バナリ彼ノ速ニ大名ヲ江湖ニ播シ得ルノ著書
ハ大抵讒誣ノ言、黨私ノ書、陰刺ノ記等ニシテ憎
惡ナル魔鬼ノ誘導シテ之ヲ筆セシメシ者ニ係
レリテレマク書名佛人フエ子ロガ大ニ流行セ
ルハ其道義ノ旨ニ脗合セルニ因ルニアラズ又
其行文ノ絢爛人目ヲ悦バシムルガ為メニアラ
ズ但世人ガ評シテ其書中ニ口キス第十四世及
ビ其朝廷ノ事ヲ暗ニ刺譏セル者アリトセシニ
由レリ之レニ反シテヒューム英人ノ史ヲ著スヤ
英國史ヲ著ス以テ彼政黨ノ精神ヲ鎮制センコトヲ希ヒ

其客氣ヲ論スルニ至リテハ恰モ化學者ガ毒物
ヲ分析スル如クセントセリ是ヲ以テ讀ム者皆
為メニ抗論ノ意ヲ起シテ此史ヲ惡メリ即チ其
當時人民ノ險惡ナラズシテ寧ロ無智ナルコトヲ
徴セラレ又其人民ガ當時ノ有様ヲ賤シマシガ
為メニ稱賞スル上代ハ却テ其時ヨリモ甚キ不
幸ト惡業トノ多カリシヲ徴セララル、ヲ惡メル
ナリ
此二派按愛憎ニノ偽冒主義ニ從事シタル著作
家ハ雄辯ノ地面ヤ比喻ノ活用ヤ行文ノ勢力ヤ

言語ノ誇張ヤ其他心情一切ノ放言ヲ占領ス其徒ノ為ニハ幸ナリト云フベシ其徒ハ世間ニ向テノ箴規ナリ恒久不易ノ真言ナリトシテ説ヲ吐クト恰モ天神ト造化トノ變易ス可ラザルガ如クシ著作家中ニ於テ擅制君主ノ如キ權柄ヲ握リ己レニ雷同セザルノ人ヲ卻ケテ之ヲ罪セリ（按）排闢餘カヲ遺サバルヲ甚言スルナリ然ルニ實利主義ノ學徒ニ至テハ他主義ノ論者ノ如ク雄辯ヲ資ルノ便利ヲ占ル能ハズ其手段モ亦其目的ト同ク殊異ナレハ（按）義ニ異ナルガ故

ニ其目的ニ達スルノ手段亦他ノ主義用ユル所ニ同ジカラズシテ雄辯放言等ノ便ヲ占ルトナシ敢テ彼レノ如ク專斷シテ其言論ノ威ヲ立ル能ハズ又人ノ耳目ヲ炫耀驚動スル能ハズ必ス先ヅ其學語ノ義解ヲ定メ一語常ニ一意ノ用ヲ為スニ止レリ此黨ノ人ハ其預備ヲ為シ其基本ヲ固クシ其機器ヲ造ンガ為メニ多ク其時ヲ費スガ故ニ其準備ニ著手スルノ間ニ厭倦ヲ生ジ大功ヲ速成セントスルノ急性ニ陥ルヲ戒懼スベシ然リト雖モ其希望スル所ノ目的ニ達スルハ唯緩徐戒慎ノ一路ニ依テ進ムノ外他術アラ

ザルナリ何ントナレハ真理ヲ衆人ニ弘布スル
ノカハ雄辯ニアリトスルモ其真理ヲ發見スル
ノ術ハ唯精研分解スルノ外アルヲ無ケレバナ
リ

第四篇

立法上三主義(按實利禁慾愛憎ノ施行ヲ
三主義ヲ云)論ス

夫レ實利ノ主義ハ古來ノ立法家未タ嘗テ能ク
之ヲ開發スルナク又此主義ヲ遵用スル者アラ
ザルナリ然リト雖氏前篇既ニ説述セシ如ク此

主義ノ彼ノ愛憎主義ト偶然冥合シテ法律ニ透
入セルヲハ往々之レ有リ蓋シ彼ノ幸福及ヒ凶
害ト云フ辭ノ意義ヲ錯マリテ起レル所ノ徳及
ヒ不徳ト云フ辭ノ普通ナル義解ハ其緊要ノ諸
点ニ於テハ大抵畫一ニシテ夫ノ社會ノ成立ニ
必要ナリシ往古ノ法律ハ皆此等普通ノ意義ニ
冥合シテ設立セラレタリ

禁慾ノ主義ヲ奉スルノ黨ハ熱心ニ之ヲ其私行
上ニ奉行スト雖氏其政治ノ施行上ニ向テ直接
ニ此主義ノ威力ヲ施スニ至テハ其之ヲ私行上

ニ於テスルノ甚キカ如クニ至ル者未タ嘗テ有
 ラザルナリ帝ニ之レ無キノミナラズ古來各國
 ノ政府ハ常ニ其強勢ト繁榮トヲ成就セント欲
 シテ其制度ト目的トヲ設立セザルハナレ其凶
 害ヲ以テ目的トスルノ國君ハ未タ曾テ有ザル
 ナリ而シテ或ハ之ヲ招クモノアルハ夫ノ偉功
 ヤ權力ヤヲ貪ルニヨル否ザレバ其一己ノ情慾
 ヲ縱ニスルヨリ其共同ノ凶害ヲ來セルモノナ
 リス（按）パルタノ國制ハ此國ヲ指シテ軍人ノ寺院
 ト稱シテ可ナル程ノ制度ナリ（按）臘ノ古國ニシテ

其法制專ラ軍政ノ為メニ設タル者ナル故ニ
 嚴格ヲ主トシテ奢侈ヲ防グリ故ニ軍人ノ寺院
 ノ如シ談國ノ事情ニ就テ其保存ノ為メニ必要
 ト云ナル者ナルナリ假令其必要ナラザルモ其立法
 者ノ考察ハ必要ナリトシテ之ヲ設立セシナリ
 己ニ此形况アラバ則チ實利ノ主義ニ適合スト
 謂フ可キモノナリ又耶蘇教諸國ノ政府ハ清僧
（按）絶スル僧徒ノ一流ナリ謝ヲ允可シタリト雖其
 僧トナリテ戒ヲ持スルノ誓ヲ為スハ唯其人ノ
 志願ニ任スルモノト見做サバ爾可ラス抑一身
 ノ苦業ヲ功德ノ事ト為シ之ヲ崇敬スト雖其

志願ニ非ザル他人ヲ引入レテ苦シマシムル
 ハ常ニ之ヲ罪業トナシタリセントロキス佛王深ク
 耶蘇教人一歸ハ己レハ麻布ヲ著服トシタレ氏其
 臣民ニ迫テ之ヲ著セシメタル事ナカリシナリ
 政治上ニ莫大ノ威力ヲ奮ヒタルハ彼愛憎ノ主
 義ニシテ諸政府ガ其無對ノ目的トシテ一般ノ
 幸福ニ著目セズ一向ニ夫ノ德行平等自由公正
 威權通商宗教ノ如キ外貌美觀ノ事物ヲ追求セ
 シハ一ニ此主義ニ由ラザル者ナレ此等ノ事物
 實ハ皆崇敬ス可キノ事柄ニシテ立法者ノ著目

セザル可ラサル所ノ者ナリト雖在往々立法者
 ヲ誘テ岐路ニ迷ハシム其故何ゾヤ蓋シ立法者
 ハ此等ノ事物ヲ以テ其目的ニ達スルノ手段ト
 ナサズシテ直チニ之ヲ以テ其目的トナシ且ツ
 之ヲ以テ共同幸福ノ從屬トセズシテ却テ之ヲ
 彼ニ換フレバナリ按言フハ共同幸福ヲ以テ徳
 行平等自由等ト主客地ヲ易
 バナリ
 是故ニ唯富殖ト貿易トニノミ從事スルノ政府
 ハ其國家ヲ視ルノ工場ノ如ク其人民ヲ視ル
 ノ生財機械ノ如シ唯人民ヲシテ富マシムルノ

ヲ得バ假令ヒ之レガ為メニ幾多ノ苦痛ヲ受ケ
 シムルトモ毫モ關心セズ此政府ノ思考ハ関稅
 為替株券ノ外ニ出デズ而メ容易ク改メ得可キ
 許多ノ凶害ヲモ默視シテ知ラザル者ノ如ク然
 リ而メ其一向願フ所ハ大ニ享福ノ手段ヲ産出
 スルニ在リト雖且却テ之ガ為メニ常ニ其享福
 ノ中ニ妨碍ヲ新生スルノ患ヲ顧ミサル者ナリ
 又一種ノ政府アリ威權ト榮光トヲ以テ公同幸
 福ノ唯一手段トナシ安固平和ヲ守テ以テ幸福
 ヲ享ントスル諸國ヲ蔑視スルヲ以テ必ズ秘計

商議（按外國交際上ノ政畧 交戰克服ヲ為サビル
ニ関スル商議ヲ云フ
 ヲ得バ此ノ如キ政府ハ其榮光ハ如何ナル不幸
 ヨリ成就セシ乎其血臭ヲ帶ビタル凱陣ハ幾多
 ノ人命ヲ犠牲トセシ乎嘗テ其考察ヲ此ニ及ボ
 サズ凱陣ノ盛觀ト版圖ノ開拓トヲ見テ為メニ
 心目ヲ蔽ハレ其國土ノ衰弊ヲ知ラズ而シテ政
 府真正ノ目的ヲ誤認スル者ナリ
 國家ノ政治宜キヲ得ルヤ否ヤ其法律ハ財產ト
 人身トヲ保護スルヲ得ルヤ否ヤ其人民ハ幸福
 ヲ享ルヲ得ルヤ否ヤ世人多クハ此等ノ諸点ヲ

考察セズシテ唯其希望ヲ政治上ノ自由ヲ得ルニ属シ其他ハ一モ關心セサルナリ而シテ其所謂政治上ノ自由トハ政權ノ最上公平ナル配分ト想像スル者ヲ指シテ云爾スルナリ若シ何レノ國ニテモ其己レガ景慕スル如キノ政體ヲ見ザル時ハ乃チ其全國人民ヲ奴隸視マ而シテ此偽冒ノ奴隸(按偽冒ノ奴隸トハ真ノ奴隸ニアラシテ奴隷トガ其政體ヲ變革スルノ意無ク能ク其スル者ヲ云)乃チ之ヲ卑ミ之ヲ嘲ル其所ニ安ズルヲ見レバ乃チ之ヲ卑ミ之ヲ嘲ル其徒ハ自由ヲ狂信スル此ノ如キヨリ其身命ヲ滅

亡スルノ外政權ヲ運用スルニ由ナキ頑愚ノ徒ニ政權ヲ與ヘンガ為メニ動モスレバ一國全躰ノ幸福ヲ一賭シテ以テ内亂ニ陷レシムルノ勢アリ
 以上ノ諸例ハ眞實ニ幸福ヲ追求セズシテ其政治上ノ空想ヲ以テ之レニ代ル者ナリ而メ此等ト雖氏亦其幸福ニ反對スルノ見解ヨリ出ルニハ非ズシテ其過誤謬見ヨリ生スルノ結果ナリ
 實利經畧中ノ一小部分ヲ拿テ之レヲ固執スルナリ公同幸福中ノ一脈ニ從事シテ其一般幸福

ニ関心セサルナリ又其追求スル所ノ目的ハ皆
唯位價（按）他物ニ関係シテ價値ヲ現出スル者即
ニ其手段モ亦尚ヲ有スル者ニシテ真價（按）他物
ムベキ者ヲ云ハ有スル者ニシテ真價ニ関セ
スシテ其獨有スルノ價値ヲ具フ即チ手段ヲ有
ノ何タルニ関ラズシテ自ラ貴キ者ナリ
スルハ獨り幸福ニ在ルヲ忘却セル者ナリ

第五篇

前篇ノ餘意ヲ解説シテ反對ノ諸論ヲ駁
ス

實利ノ主義ニ對シテ或ハ細微ノ抗議ヲ容レ或
ハ言語上ノ小論難ヲ容ルモノアラシク然リト雖

氏能ク真正ノ抗議ト確乎タル論難トヲ立テ、
之ニ反對スル者ハ終ニアラザルナリ其實ハ此
實利ノ主義中ヨリ流出スル道理ヲ措キ又外ニ
何者カ能ク之レニ抗スル者アルトヲ得ンヤ故
ニ人アリテ若シ實利ノ主義ハ危険ナル者ナリ
ト言フガ如キハ正ニ是レ實利ニ計議スルハ即
チ實利ニ反對スルナリト言フ者ト同キノミ（按）
險ナルトハ安全ナラサルナリ故ニ實利ノ主義
ハ危険ナリト言フハ即チ其危険ノ不利アリテ
安全ノ利益無シト言フノ義ナレハ其意正ニ實
利ニ計議スルハ實利ニ反對スト云フガ如シ是
却テ此ノ主義ヲ贊スル者ナリ

斯ノ如キ異論ハ畢竟言辭ノ意義ヲ誤解スルヨ
リ生ズル者ニシテ乃チ世人ノ口吻ニ於テ德行
トハ實利ニ反對スル者トセル慣習アリ而シテ義
務ノ為メニ利益ヲ捐棄スルヲ以テ德行ノ意義
トナセバナリ

此趣旨ニ明瞭ナル意義ヲ附與スルニハ左ノ分
解ヲ為ザル可ラス即チ利益ニ許多ノ階位アル
事ト及ヒ或ル時勢ニ依リ此許多ノ利益並行ス
可ラザル事ト是ナリ而シテ吾所謂德行トハ此
少ノ利益眼前ノ利益疑似ノ利益ヲ棄捐シ洪大

ノ利益長遠ノ利益必然ノ利益ヲ收取スルニ在
ルナリ此義解ヨリ出ザル所ノ德行ノ意義ハ皆
其誘原一定セザルカ為メニ其意義モ亦分明ニ
之ヲ理會スル能ハザルナリ
便宜ノ為メニ政學ト道學トヲ區劃シ實利ヲ政
學ノ主義ト為シ公正ヲ道學ノ主義ト為ント企
ルノ論者アリ是レ唯其錯亂ノ意義ヲ為スニ過
ギザルノミ夫レ政學ト道學トノ區域ヲ殊ニス
ルハ唯甲ハ政治ノ運用ヲ指定シ乙ハ各人ノ行
為ヲ指定スルニ在リ然リト雖モ其目的タラ唯

一アルノミ幸福即チ是ナリ猶是レ算學ノ如シ
其規程之ヲ大數ニ用レバ適中シ之ヲ小數ニ用
レバ差違スト云フヲ得ンヤ故ニ其政治上ニ善
ナル者ハ其道義上ニ惡ナルノ理無キモ亦明カ
ナリ
吾人中心ニ實利主義ヲ遵奉スト考想スルノ時
ト雖氏尚ホ躬凶害ヲ為ス事無キニアラス夫ノ
短智狹識ニシテ其觀察唯弊害ノ一小部若クハ
幸福ノ一小部ニ局セラレテ自ラ知ラサル者ア
リ又熱心銳意ニシテ一種ノ幸福ヲ崇重スルニ

過ギ之ニ由リ續テ起ル可キ許多ノ弊害ノ其中
ニ隱藏スルヲ透見スル能ハザル者アリ夫レ世
間稱シテ惡人トスル所ノ者ハ唯他人ニ害アル
ヲ快樂トスル癖習アル者ヲ云フナリ而メ此
癖習ハ唯一種ノ快樂ノ為メニ其他許多ノ快樂
ヲ空視スル者ト云フモ不可ナルヲナシ此ノ如
キ實利ノ本質ニ反セル過失ヲ以テ實利ノ域内
ニ曳入シ以テ實利ヲシテ之ガ責ニ任セシムル
ノ理アル可ラサルナリ而メ其本質ト反對セル
者ヲ辯明改正スルハ獨リ實利ノ主義之ヲ能ク

不正ナル者ナリト是語ヲ見来レハ須用ト公正
 トハ全ク相反スルモノト云フガ如シ然レモ是
 レ決シテ然ラザルナリ此語ヤ唯幸福ト凶害ト
 フ比較シタルニ過ギズ抑不正トハ人々互ニ信
 任スル能ハザル場合ヨリ起ル可キ許多ノ凶害
 フ一括スルノ言辭ナリ故ニアリスチーデスハ
 左ノ如ク言フヲ得可シ曰クセミストクリスノ
 計策ハ目前ニ須用ナリト雖モ後代永ク凶害ト
 ナラン故ニ此計策ハ利害相較スルニ其得失相
 中ラザル者ナリト原注此古話ハ唯言辭ノ意義
 明解セシガ為メニ引用ス

ルノミ其事ノ虚傳タルハ既ニ確証アリミトフ
 オルドノ希臘史ニ就テ見ルベシ○プリキタル
 ク希臘ノ學士ハ雅典人民ヲ揄揚セント欲シタ
 リ然レモ此貴重スベキ感情ト雅典史ノ大部分
 ト相拮据スルノ事實多キニ
 ハ甚タ苦辛セシナルベシ
 人或ハ言フ實利ノ主義ハエピキユリアニスム
 理學ノ一派希臘ノ學士エピキユリアニスム
 キニールスノ首唱セシ者ヲ再興セシ者タル
 ニ過ギズ抑エピキユリアニスム教ノ世ノ道義
 ヲ壊敗シタルハ人ノ普ク知ル所ニシテ最大汚
 行ノ人之ヲ奉ジタリト
 蓋シ古人ノ中ニ就テ道義真個ノ源流ヲ了知ス
 ルノ功アル者ヲ求ムルニ唯エピキユールス一

人アルノミ然リト雖氏世人ガ漫ニ此教派ニ歸
 スルノ結果按此教派固ト道義ヲ壞敗セズ然ル
 道義ノ壞敗ヲ以テ世人ハ他ヨリ起レル惡結果即チ
 冤ヲエピキユールスニ教派ニ歸シテヲ以テ此教
 派ノ實ニ引起ス所ナリト思考スル者ハ恰モ亦
 幸福ハ幸福ノ敵ナリト思考スルニ同ジキノミ
 其教語ニ曰ク現時ノ享樂ノ為メニ將來ノ享樂
 ヲ害スル勿レト此説ニ於テハセ子カ羅馬ノ所
 見モ亦エピキユールスニ同ジ夫レ道義ト云フ
 者ハ自己若クハ他人ニ有害ナル各種ノ快樂ヲ
 截止スルノ外豈又望ハ可キ者アラシ乎而メ我

實利ノ主義ナル者即チ是ナルノミ
 然ルニ又一抗議者アリ曰ク實利ノ主義ニ隨ハ
 バ人々各自ノ實利ヲ斷スル者トナルガ故ニ此
 教則ニ依レバ人々各自ノ義務ヲ履行スルニ
 際シ苟モ己レノ實利ヲ見ザルニ至ルヤ否ヤ則
 チ必ス其義務ノ効力ヲ失却ス可シト按義務ヲ
 ハ利益アルガ為メト云ハミ例ハハ約束ヲ為シ
 テ其半途ニ至リ利益ヲ見ザル時ハ其約束ノ義
 務絶ユト
 夫レ人々各自ノ實利ヲ斷スル者トナルト云
 フ此事ヤ實ニ然リ是レ理ニ於テ當然ナル者ナ

リトス否ザレバ人焉ゾ靈物タルヲ得ンマ若シ
人何物カ其自家ニ快適ナルカヲ判定スル能ハ
サル者ハ是レ尚ホ孩兎ニダニモ及バザル者ナ
リ唯是レ白痴漢タルノミ凡ソ世人ヲ其約束ニ
羈絆スル義務ト云フ者ハ又別事ニ非ザルナリ
即チ其大利ヲシテ其小利ニ羸タシムルノ義ヲ
理會セシムルノミ人一個ノ約束ノ義務ヲ擔フ
ハ唯ニ其特種實利ノ為メニ之ヲ擔フニ非ズ假
令又其約束ヲシテ一方ノ不利トナラシムルモ
尚ホ他ノ約束ニ於テ其一般實利ノアルガ為メ

ニ此義務ヲ擔フ者ナリトス即チ世ノ伶俐ノ人
ハ皆必ズ自己ノ言語ノ信ヲ世ニ取ラントテ希
ヒ其有信人タルノ稱ヲ得ンガ為メ又其正直ノ
名義ヲ得テ其美名ヨリ生スルノ利益ヲ享ケン
為メニ然ルナリトス夫レ彼義務ヲ構成スルハ
其約束ト云フ者ノ自ラ能ク之ヲ為スニ非ザル
ナリ何トナレハ或ル約束ハ無効ニ属シ或ル約
束ハ不法ニ属スルモノアリ其故如何蓋シ其有
害ト視認セラル、ガ為メナリ是ニ由テ之ヲ觀
レバ定約ニ効力ヲ與フル所以ノモノハ唯其定

約ニ存スルノ實利能ク之ヲ為スナリ
 世人ガ盛稱スル徳義ノ諸行ヲ以テ悉皆之ヲ幸
 福ト凶害トノ比較算計ニ歸着セシムルヤ難キ
 ニアラズ而シテ今其理由ノ結果ヲ以テ徳義ヲ
 評シ簡易明白ナル方法ヲ以テ徳義ヲ解スルモ
 決シテ其徳義ノ位格ヲ低下シ又其勢力ヲ減損
 スルニ至ルノ理アルヲ無キナリ按世人ハ深奥
義ヲ評スルガ故ニ今實利ナル的實ノ嫌ヲ以テ
之ヲ解スルバ却テ淺近ナリトスルノ嫌アルヲ
恐ル故ニ此語
 世人若シ實利ノ主義ニ服セズンバ將ニ全ク彼

詭辨ノ環域ニ陥ラントス一人アリ曰ク余ハ余
 ノ約諾ヲ履行スルノ義務アリト問者アリ曰ク
 其故如何曰ク余ノ良心ノ余ニ命スル斯ノ若ク
 ナレバナナリ曰ク汝何ヲ以テ汝ノ良心ノ汝ニ之
 ヲ命スルヲ知得スルヤ曰ク余中心ノ感情斯ノ
 若クナレバナナリ曰ク何故ニ汝ハ汝ノ良心ニ從
 フノ義務アリヤ曰ク天神ハ余ノ性ヲ造為スル
 者ナリ故ニ余ガ余ノ良心ニ從フハ即チ天神ニ
 從フ者ナリ曰ク何故ニ汝ハ天神ニ從フノ義務
 アリヤ曰ク是レ余ガ第一ノ義務タレバナナリ曰

三法言終 卷一
ク何ヲ以テ之ヲ知ルヤ曰ク余ノ良心ノ之ヲ我
ニ告レバナリ如此循環シテ遂ニ究極アルナレ
此等ノ徒ハ畢ニ此循環ノ域内ヲ出ル能ハズ是
レ即チ冥頑誤謬ノ淵叢トナランノミ其故何ゾ
ヤ世人苟モ其感情ヲ以テ萬事ヲ是非スルハ
其開明セル良心ノ令スル所ト其昏迷セル良心
ノ令スル所トヲ分別スルノ手段絶エテ無レバ
ナリ果シテ然ラバ世間ノ異教攻撃家ハ皆同等
ノ口實ヲ有シ其狂信徒ハ皆同等ノ權利ヲ有セ
ントスルナリ

世人若シ實利主義ノ誤用シ易キガ為メニ之ヲ
擯斥セント欲スル者アラン乎余將ニ此人ニ問
ントス若シ此主義ヲ棄斥セバ果シテ何ノ主義
ヲ以テ之ニ代用セントスルヤ世間何處ニカ誤
用ス可ラザル所ノ規則アルヤ又何處ニカ誤謬
ナキノ教導者アルヤト
此ノ徒ハ人ヲ視ルヲ百依百隨ノ奴隸ノ如クシ
理由ヲ辨知セシメズシテ唯其指令ニ是從ハシ
ムル所ノ或ル專斷主義ヲ以テ之ニ代用セント
スル者乎

抑又唯自己ノ親密ナル特殊ノ感情ヲ基本トス
ル所ノ或ル消長無常唯意是隨フノ主義ヲ以テ
之ニ代用セントスル者乎
果シテ此等ノ主義ヲ以テ代用セハ何ノ誘原ア
リテ世人ヲシテ之ニ從フノ意ヲ生セシメント
スル乎、而シテ其用キル所ノ誘原ハ彼ノ利害ヲ
離レテ相關涉スルヲ無ラシムル乎此ノ如キ時
ハ世人若シ其主義ニ協同スルヲ肯セザル者
アレバ如何シテ之ヲ説明シ之ニ服行セシメン
トスル乎若シ之ヲ其共同利益ノ終局（按實利主
義ヲ云

ニ訟ハザルキハ彼ノ世界ニ充溢スル許多ノ宗
派ヤ許多ノ教則ヤ許多ノ抗論ハ果シテ之ヲ何
ノ廳ニ召喚シテ其是非ヲ判決セントスル乎
實利主義ノ抗敵中最モ頑固ナル者ハ所謂宗教
主義ヲ以テ基礎トシテ其説ヲ為ス徒ナリ其徒
ハ彼神意ヲ以テ人世ノ幸福凶害ノ唯一規程ト
リト宣言シ又云フ神意ハ無謬普通全權等ノ如
キ一切緊要ノ性質ヲ具備スル所ノ唯一規程ト
リト予ハ將ニ此徒ニ向テ左ノ一言ヲ呈セント
ス曰ク宗教主義ハ一派特立ノ主義ニアラズ唯

上文駢記スル所ノ三主義中ニ就テ一派ノ形状ヲ現出スル者ニ過キザルナリ且ツ天神親ラ其身ヲ現シテ直接ノ教令ト特殊ノ啓告ヲ為シ以テ各人ニ説明スルニ非ズンバ其所謂神意ナル者モ亦唯吾人ガ臆度シテ神意トスル者ニ過ギザルナリ

夫レ人何ヲ以テ神意ヲ臆度スル乎唯其自己ノ私意ヲ以テ之ヲ臆度スルニ過ギザルノミ而シテ其意ハ常ニ上文駢記スル所ノ三主義中ノ一ニ因テ發揮セラレザルアルコトナシ茲ニ人アリ

曰シ某事ハ天神ノ禁スル所ナリト若シ之レニ問フニ何ヲ以テ其禁ヲ知ルト云シニ彼レ若シ實利家ナラシニハ將ニ答ヘテ云ントス其事タル人類ノ幸福ニ害アルヲ以テ天神ノ禁スル所タルヲ知ルト若シ又禁慾家ナラシニハ將ニ答ヘテ云ントス其事タル粗俗淫肆ノ快樂ヲ含有スルヲ以テナリト若シ又愛憎家ナラシニハ其事タル人ノ良心ヲ戕害シ天然ノ感情ニ反對スル者ナルガ故ニ常ニ其故ヲ推究シテ憎惡ス可キナリト

然リ而ノ渠等將ニ言ントス曰ク啓告（按啓告トハ天啓告ト
 教ヲ人間ニ漏告シタル者ト云フノ義ニシテト
 新旧約書載スル所ハ即チ是ナリト傳説ス
 ハ即チ神意ノ直接發言ナリ又疑ヒ争フベキ者
 ニ非ズ而シテ人智ノ企及ス可ラサル誘導者ナ
 リト
 予ハ之ニ對シテ此啓告ハ普通ノ者ニアラザル
 ナリ況ヤ耶蘓教諸國ノ中ニ在テモ其説ヲ首肯
 セザルノ人尚ホ多キヲヤ且ツ道學政學ハ必ス
 世間普通ノ論理主義ヲ要スルナリ（按道學政學
 說明ノ手段ヲ以テ行フ可ク何ヲ以テ禁ス可キト
 云フノ手段ヲ用キル其原由ヲ説明セズ唯神意

ト是レ歸ス可ラト云フ如キ間接ノ諸答ヲ下
 サズシテ將ニ直ニ曰ントス啓告ト云フモノハ
 政學道學ノ法規ニアラズ又其神言中ニ言フ所
 ノ教語ニ至テモ彼此相互ニ之レヲ解釋シ之ヲ
 修正シ之ヲ制限セザル可ラザル者アリ若シ彼
 啓告ノ神言ヲ直説シテ之ヲ實施セシメバ之カ
 為ノニ世綱ヲ傾覆シ、自衛工藝貿易及ヒ彼此ノ
 交情ヲモ泯滅セントス夫ノ宗教上ノ歴史ハ宗
 教ノ法言ヲ誤解セシニ起レル所ノ畏ル可キ凶
 害ノ確徴ナリト

夫レ新教徒ト舊教徒トノ神學家ハ其間ノ差異
 アルヲ果シテ如何ゾヤ今代教徒ト古代教徒ト
 其間ノ差異アル果シテ如何ゾヤペイリ英國
 學ノ聖教道義ハニコール佛國ノ聖教道義ニ
 同ジカラズ又ジヤンセニス神學家ノ聖教道義ニ
 シセシコノ聖教道義ハジエスウキツト亦旧教
 是班牙人イグナチエノ聖教道義ニ同ジカラザ
 一ス、ロヨラ之ヲ創ムルナリ
 是故ニ聖經ノ注釋家ハ之ヲ別チテ三種トス可
 シ其第一種ハ實利主義ヲ以テ其監定ノ規定ト

ナシ其第二種ハ禁慾家ニ属シ其第三種ハ愛憎
 混同ノ感情ニ憑ル者ナリ此第一種ハ啻ニ快樂
 ヲ禁斷セザルノミナラズ却テ之ヲ以テ天神恩
 惠ノ引證トセリ又禁慾家ハ快樂ノ勅敵ナリ其
 或ハ万一ヲ許スアルモ亦之ヲ快樂トナシテ
 許スニ非ズ之ヲ以テ或ル緊要ノ目的ニ達スル
 手段ト看做スモノナリ又此第三種タル愛憎混
 同家ハ其空想ニ一任シテ嘗テ其結果ノ如何ヲ
 觀察セズ或ハ之ヲ是トシ或ハ之ヲ非トスル者
 ナリ然ラハ則チ彼ノ啓告ハ一種具躰ノ主義ニ

立法論綱

アラズ何トナレバ他事ヲ假借シテ其徵明ヲ要
セズ却テ之ニ因テ他ノ事物ヲ徵明スルニ足ル
者ノ外決シテ之ヲ一個ノ主義ト正稱スベキ者
ナキヲ以テナリ

立法論綱卷一

禁欲考

